

—— 地域の魅力が世界に響く ——

HOW TO

多言語

解説文整備

文化財・自然・観光資源

中国語（簡体字・台湾繁体字）版

解説文

整備ガイド

〈知ってもらおう〉前に、知っておく！

外国人旅行者に、地域の「魅力」を持ち帰ってもらうために——。
旅行者のことを知っておくという「おもてなし」の気持ちを込めた
英語から中国語へ解説文を整備するノウハウを、ご紹介します。

観光は、本格的な少子高齢化・人口減少を迎える我が国において、成長戦略と地方創生の大きな柱です。日本政府は、2030年までに訪日外国人旅行者（以下「外国人旅行者」という）を6,000万人に増やす目標を掲げ、官民を挙げて取り組んでいます。市場別では、中国語圏（中国本土、台湾、香港）からの外国人旅行者（以下「中国語圏旅行者」という）の数は全体の半分以上を占め、2019年には初めて1,600万人を突破しました。

さらに多くの外国人旅行者の訪日を促し、満足して帰っていただくには、我が国の文化、歴史、自然等の観光資源をいかに活用するかが重要です。とりわけ、外国人旅行者にとって読みやすく、分かりやすい魅力的な解説文を作成することは、外国人旅行者の満足度を高める上で必要不可欠です。これらの認識の下、既に各地域では多言語解説の整備を行っていますが、施設によっては解説文の数が多過ぎたり、説明が不十分なものがある等の課題が散見されます。そのため観光庁では、文化庁・環境省と連携して平成30年度から「地域観光資源の多言語解説整備支援事業（以下「観光庁多言語事業」という）を実施し、「国立公園」、「世界遺産」、「国宝・重要文化財」、「地域伝統芸能」、「祭り」、「食文化」及び「温泉」等の観光資源について、解説文を作成してきました。

一方、今後中国語圏旅行者の更なる増加に伴い、中国語解説文作成のニーズが高まることが予想されることから、令和2年度より、観光庁多言語事業の英語解説文を活用し、「地域観光資源の中国語解説整備支援事業（以下「本事業」という）」を開始しました。本事業では、令和2年度から令和4年度までの計99地域の英語解説文を元に、中国語圏旅行者の関心・嗜好を十分に考慮した上で中国語解説文に翻訳しました。しかし一口に「中国語」と言っても、中国本土、台湾、香港では、地域が異なるゆえのさまざまな相違が存在します。字体が違う（簡略字か旧漢字か）だけでなく、文法や表現も異なる場合があるため、一律に簡体字を旧漢字に変換すればよいというわけではありません。繁体字ネイティブが見て違和感のない、自然な表現にする必要があるのです。

本ガイドライン『HOW TO 多言語解説文整備中国語（簡体字・台湾繁体字）版』は、今後、観光庁多言語事業で作成した英語解説文を元に中国語解説整備を行おうとする地域が、中国語圏旅行者にとって魅力的な解説文を作成する際に参考とするガイドラインとしてまとめたものです。

今後も本事業において新たな知見が得られた場合、本ガイドラインを改定していく予定です。これまでのノウハウを詰め込んだ本ガイドラインが、多言語整備を行う予定の皆さまのお役に立てることを願います。

Pick Up

「解説文」とは？

「解説文」とは、観光資源であるあらゆる分野のもの・ことに対して、事実をもとに正確に書かれた説明文のことです。

本事業では、観光資源のもの・ことについて、日本の知識レベル初心者から日本文化・社会などに対して深い理解を持つ層まで幅広い「訪日外国人旅行者」が理解でき、楽しんで観光するための有益な情報を提供する解説文の整備を目指しています。

このガイドラインを通じてどのように解説文を作成していくのか学んでいきましょう！

この冊子の構成と内容

第1章の内容

中国語圏旅行者は、観光地に関する情報収集に対して、どのような期待を持っているでしょうか？ 観光庁が実施したアンケート調査の結果をもとに、中国語圏旅行者のニーズと、それへの対応の現状を概観します。

中国語解説文の必要性や望ましい解説文のあり方について知りたい方は、この章をご覧ください。また、章末の自己診断シートを用いて、地域の現状を確認してみましょう。

第2章の内容

中国語解説文の整備は、どのような方針で、何に注意して進めればよいのでしょうか？ 中国語圏旅行者にとって魅力的で役に立つ内容とするために、理解しておきたいポイントをご紹介します。

中国語解説文の整備に携わるスタッフが共有しておくべき知識・認識について知りたい方は、この章をご覧ください。

第3章の内容

中国語解説文は、具体的にどのような手順で作成すればよいのでしょうか？ また、その準備にはどのくらいの期間が必要でしょうか？ 中国語解説文の作成の手順をステップに分けて詳細に説明します。

中国語解説文の整備に必要なスタッフの構成と役割、地域との確認作業の流れについて知りたい方は、この章をご覧ください。

本事業の体制

本事業の有識者体制等を紹介します。

目次

はじめに	2
------	---

第 1 章 観光地における中国語解説文の現状と課題	9
---------------------------	---

旅行者から見た中国語解説文の現状	10
------------------	----

自己診断 地域の多言語解説文の現状は……？	12
-----------------------	----

第 2 章 中国語解説文作成における基本的な考え方	13
---------------------------	----

中国語解説文の整備において重視すべきポイントの概要	14
---------------------------	----

ポイント 1 日本文化に対する認識や知識の違いを意識する	15
------------------------------	----

ポイント 2 旅行者の興味・関心を把握する	18
-----------------------	----

ポイント 3 媒体の種類や特徴に応じた文章表現に留意する	22
------------------------------	----

ポイント 4 国・地域による中国語の違いを理解する	27
---------------------------	----

ポイント 5 専門性と経験を備えた人材を確保する	29
--------------------------	----

第 3 章 中国語解説文作成の進め方	31
--------------------	----

中国語解説文作成手順の全体的な流れ	32
-------------------	----

中国語向けにふさわしい内容の解説文の下準備 (STEP 1 ～ STEP 3)	34
---	----

中国語解説文の作成と確認 (STEP 4 ～ STEP 5)	38
--------------------------------	----

中国語解説文の完成 (STEP 6 ～ STEP 7)	42
-----------------------------	----

本事業の体制	44
--------	----

Pick Up

「解説文」とは？	3
----------	---

「翻訳調」に注意！	26
-----------	----

事業の主体者もメインとなって推進することの重要性	33
--------------------------	----

この冊子について

この冊子『HOW TO 多言語解説文整備中国語（簡体字・台湾繁体字）版』は、中国語解説文整備を行う際のガイドラインです。本事業では、日本人と文化的背景が異なり、知識レベルも感性においても多様な外国人に向けて、観光資源の魅力を伝え、理解を深めてもらうことができる解説文の作成を目指しています。中国語圏旅行者の関心・嗜好を考慮した上で、どのような点に配慮し、どのように作成を進めていくと、魅力的な中国語解説文ができるのか、本事業を通じて蓄積されたノウハウを紹介します。

本事業のこれまでの成果物

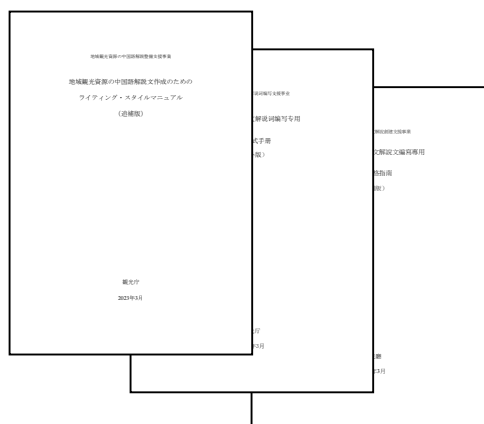
本事業では、観光資源所有者や管理者、事業者等が、観光庁多言語事業で作成した英語解説文を元に中国語解説整備を行う際に参考となるよう、次の4点を作成しました。既存の中国語解説文の見直しを行う際や、新たに中国語解説整備を実施する際に、ぜひ参考にしてください。

1. HOW TO 多言語 解説文整備



中国語解説整備を行うにあたり、どのような点に考慮・配慮し、どのように作成を進めていくと、中国語圏旅行者の興味・関心を引き、かつ分かりやすい中国語解説ができるかを示すガイドラインです。

2. ライティング・スタイルマニュアル 日本語版・中国語版（簡体字・台湾繁体字）

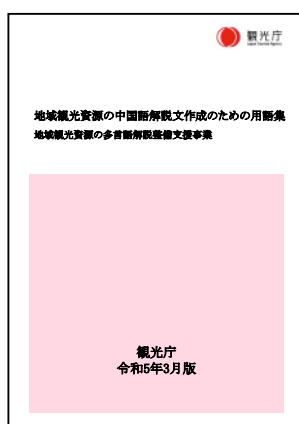


中国語解説文を作成する事業者（翻訳者、エディター等）が作成を進めていく際に、参考とするスタイルに特化したマニュアルです。ただし、「これが正しい」と示す方式をとらず、中国語圏旅行者をターゲットに「この言葉では伝わっていない可能性がある」「このように伝えたほうが分かりやすい」という視点に立ち、理由と具体例を用いて説明しています。既に地域に同様のスタイルマニュアルがある場合でも、ぜひ参考としてください。

●「地域観光資源の中国語解説整備支援事業」事業全体の紹介

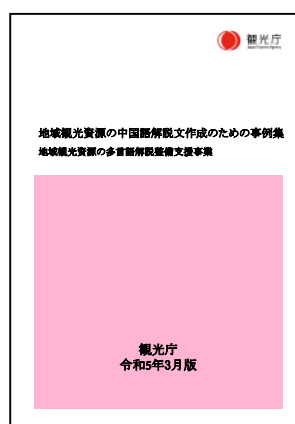
本事業は、今後中国語圏からの訪日外国人旅行者の増加に伴い、中国語解説文作成のニーズが高まることが予想されることから、平成 30 年度から実施している観光庁「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」の成果物を活用し、専門人材のリストの作成、中国語解説文作成の支援、中国語解説文作成に関するノウハウの蓄積等を行い、各地域での観光資源の魅力を伝える中国語解説整備を促進しています。

3. 用語集



観光資源の所有者や管理者、及び中国語解説文を作成する事業者（翻訳者、エディター等）が作成を進めていく上で、参考とする専門用語事例集です。

4. 解説文事例集



本事業において作成された解説文全点を掲載したアーカイブです。中国語圏旅行者にとって魅力的な解説文を整備するために、観光資源の所有者や管理者及び制作事業者が何に、どのように取り組めばよいのか、中国語解説整備に役立つ事例を具体的に紹介しています。

第 1 章

観光地における中国語解説文の 現状と課題

中国語圏旅行者は、観光地に関する情報収集に対して、
どのような期待を持っているのでしょうか？

観光庁が実施したアンケート調査の結果をもとに、
中国語圏旅行者のニーズと、それへの対応の現状を概観します。

旅行者から見た中国語解説文の現状

旅行者は解説文にこんな期待を寄せています！

観光地において、観光資源の解説文整備とその多言語化が進められています。では、訪日外国人旅行者は、それらの解説文をどのように評価しているのでしょうか。

観光庁が平成 30 年度に実施した「訪日外国人旅行者の受入環境整備に関するアンケート」調査では、中国語圏旅行者が訪日中に多言語対応で一番困った場所として最も多く挙げられたのは「観光地」でした。

さらに、令和 2 年度に中国本土と台湾の訪日経験または訪日意向がある者を対象として実施した「地域観光資源の中国語解説整備支援事業」アンケート調査の中で、「訪日中に観光地の説明（解説）に困ったこと」という問いに対する回答から、次の 2 つの示唆が得られました。

① 中国語（簡体字・繁体字とも）の解説文がほしい！

中国本土と台湾のどちらの旅行者もともに、「中国語の解説文がないこと」が訪日中に最も困ったことだと回答しました。また、台湾の旅行者の中には、「簡体字しか整備していないため」困ったと答えた者も少なくありません。中国語圏旅行者の増加に伴い、中国語解説文に対するニーズも拡大しており、中国語解説文の整備は中国語圏旅行者の満足度を高める上で必要不可欠です。

しかし、「中国語」と一口に言っても、簡体字の文と繁体字の文では、字体だけでなく用語、表現等も異なります。さらに繁体字の文についても、台湾繁体字と香港繁体字の両者は、互いにある程度の参照はできるものの、用語等に違いがあります（p. 27 参照）。どの種類の中国語文に対応して解説文を整備するか、各地域ごとの旅行者のニーズに合わせて選択することが望ましいでしょう。

② 分量が適切で興味深い内容の解説文がほしい！

一方、すでに中国語解説文が整備されている場合でも、その解説文に対しては、「専門用語が多く、理解できない」といった評価のほか、「情報量が多すぎる・文章が冗長」、または逆に「情報量が少なく物足りない」という評価も多く見受けられます。

つまり、すでに中国語解説文が整備されている場合でも、中国語圏旅行者の目線で内容や表現を再検討する必要があることが分かります。例えば、直訳や機械翻訳によって作成された解説文では、旅行者に内容が伝わりにくくなっている可能性もあります。

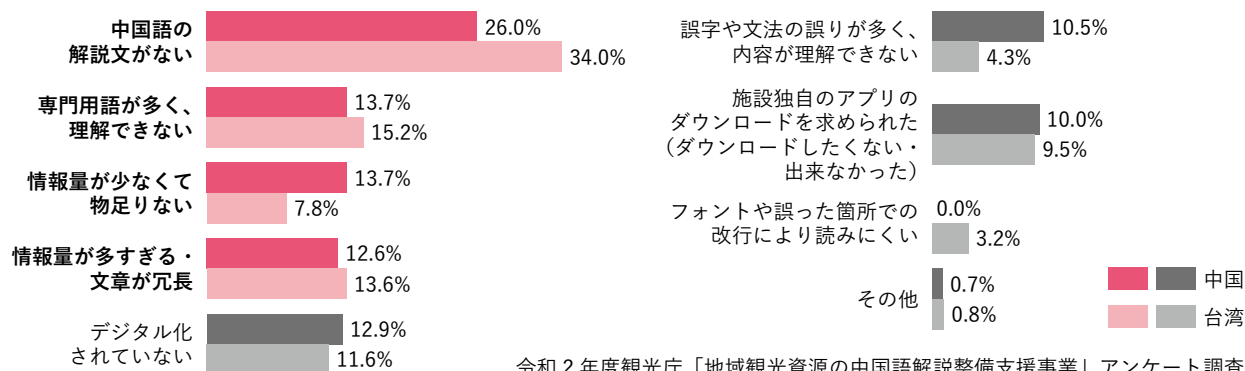
読み手にとって分かりやすく魅力的な中国語解説文を作成するためには、中国語圏旅行者のニーズや嗜好、興味関心を見極め、それに適した内容と表現にすることが重要です。

では、アンケート調査の結果を右ページでもう少し詳しく見てみましょう。

中国語解説の現状は？

中国本土か台湾かを問わず、いずれの中国語圏旅行者も、中国語の解説文がほしいと望んでいるだけでなく、解説文に専門用語を多用せず、適切な言葉遣いと文章構成で読みやすく書かれていることを多く望んでいます。魅力的な中国語解説文を作成するためには、地域や整備対象の特徴に適した文体（文章のトーン＆マナー）が重要な要素であるといえます。

Q. 過去に日本を旅行中、観光地の説明（解説文）を読んだ際に困ったこと



過不足のない情報提供が重要！

アンケート調査では、「事業実施前後による解説文の満足度」に関しても調査を行いました。その結果からは、改善の必要があると思われる解説文のさらに具体的な特徴が浮き彫りになりました。

▼こんな解説文は「要改善」

情報の内容が……

少なすぎる

観光において有益な情報が不足している

※交通情報や社寺の参拝マナーなどの留意事項に至るまで、観光客の視点に立ってさまざまな側面から必要な情報を検討することが望まれています。

多すぎる

共通の文化的背景があつてすでになじみのある内容なのに、説明が詳しすぎる

※とりわけ仏教に関連する内容では、詳細な解説は必要とされない傾向が見られます。

難しすぎる

専門性が高すぎて、説明の内容も、解説対象の紹介価値も理解しにくい

※とりわけ自然（動植物）や文化財（建築）の説明で、地域独自・日本独自の専門用語を多用しすぎて理解が難しくなっているケースが多いようです。

解説文の表現が……

冗長すぎる

文字数が多すぎて、途中で読むことを諦めてしまう

不自然すぎる

直訳調の表現や誤字・脱字等の誤りが目立ってスムーズに読めない

散漫な構成である

伝えたいポイントが絞られておらず、説明が漫然としている

興味をそそらない

専門用語が羅列されていて学術向けの文章のように感じられる

Check!

自己診断 地域の多言語解説文の現状は……？

中国語解説文をめぐって、しばしば見られる問題点をピックアップしてみました。
ご自身の地域の現状は、どうでしょうか。まずは、セルフチェックをしてみましょう。

地域在住の中国語ネイティブの意見を実際に聞きながらチェックしてみましょう！

- ☒ 中国語圏旅行者が来訪している施設・場所なのに、中国語解説（簡体字・繁体字のいずれかまたは両方）が整備されていない。
- ☒ 解説文は以前に整備済みだが、時流に合わせた見直しなどは行っていない。
- ☒ 日本語解説文または英語解説文を、中国語に直訳したり、機械翻訳したりしている（しようとしている）。
- ☒ 中国語圏旅行者が事前に持っている知識、認識をとくに考慮せず、説明過多の内容になっている。
- ☒ 学術的な専門用語を多用した解説文であっても、言い換えや補足説明などは行っていない。
- ☒ 看板、パンフレット、WEB ページなど、いくつもの媒体に同じ中国語解説文を使い回している（使い回そうとしている）。
- ☒ 簡体字と繁体字は、機械的に字体だけを変換して対応している（しようとしている）。
- ☒ 中国語の翻訳・編集を専業とする中国語ネイティブに依頼した解説文ではない。

1 つでもチェックがついたら改善が必要です。第 2 章を確認しましょう ▶

第 2 章

中国語解説文作成における 基本的な考え方

中国語解説文の整備は、どのような方針で、
何に注意して進めればよいでしょうか？

中国語圏旅行者にとって魅力的で役に立つ内容とするために、
理解しておきたいポイントをご紹介します。

中国語解説文の整備において 重視すべきポイントの概要

文化財施設や国立公園等の観光拠点では、その場所の歴史や背景的な情報を訪日外国人旅行者に理解しやすい形で伝えることが求められます。適切な情報を提供することができてこそ、訪れた人は観光資源について正確に理解し、評価することができるようになります。

外国人旅行者に向けた解説という、文法や表現が正しいかというライティング技術に注目しがちですが、そのみに留まらず、中国語圏旅行者の立場で役に立つ興味深い情報を盛り込み、簡潔かつ理解しやすい表現で、読み手の学びや感動を深めるものであることが望まれます。

そのような解説を作成するには、以下のポイントが重要です。

ポイント

1

日本文化に対する認識や知識の違いを意識する

15 ページを確認しましょう ▶

「日本語解説文（英語解説文）をそのまま中国語に翻訳すれば大丈夫」なのでしょうか……？ 旅行者が事前に持っている認識や知識についての配慮が必要です。

ポイント

2

旅行者の興味・関心を把握する

18 ページを確認しましょう ▶

旅行者にとって「読みたい、読んでよかった」と思える解説文になっているのでしょうか……？ 中国語解説文に対してどのような期待を持っているのかを理解することが必要です。

ポイント

3

媒体の種類や特徴に応じた文章表現に留意する

22 ページを確認しましょう ▶

「SNS も解説看板も同じ文体で大丈夫」なのでしょうか……？ 旅行者がいつ、どのようにして情報に接触するのかをあらかじめ想定し、それに応じることが必要です。

ポイント

4

国・地域による中国語の違いを理解する

27 ページを確認しましょう ▶

「同じ中国語だから、簡体字と繁体字の字体だけ置き換えれば大丈夫」なのでしょうか……？ 中国語の多様性と、漢字・用語・表現の違いに注意することが必要です。

ポイント

5

専門性と経験を備えた人材を確保する

29 ページを確認しましょう ▶

「長期間の中国滞在経験がある人だから大丈夫」なのでしょうか……？ 解説文整備に必要な知識・スキルについて理解し、適切な人材を起用することが必要です。

日本文化に対する認識や知識の違いを意識する

日本人向けの日本語の解説文は、日本人にとって当たり前の文化や習慣等を前提とした情報を掲載しています。しかしこれをそのまま各国語に翻訳した場合、日本の歴史や文化についての背景的な知識を持たない外国人旅行者には内容が難しく、理解しにくいものになってしまう可能性があります。地域によっては日本人向けの解説文を直訳したものや、機械翻訳の文章が使われている事例も少なくないようですが、これでは外国人旅行者にとって、不親切で満足度の低い解説文になってしまいます。

観光庁多言語事業の英語解説文は、これらの課題に取り組んだ結果、外国人旅行者の目線に沿った内容になっていて、英語圏に限らず旅行者にとって大変満足度の高い内容の解説文になっています。文章構成の面でも、全体の概要から始めて個別の詳細説明に移るという論の展開のしかたは、中国語圏旅行者にとっても馴染みやすいものと言えます。

一方で、中国語圏旅行者を対象とするがゆえの情報の取捨選択も必要です。中国語圏と日本は、歴史的、文化的に相互に影響を受けながら、発展の歩みを進めて来たことを考慮し、情報の過不足がないよう調整することが重要です。

中国語圏旅行者の立場に立って情報を整理した上で翻訳することが大切であり、その際に観光庁多言語事業で作成した英語解説文は、より魅力のある中国語解説文作成の一助となるでしょう。

英語解説文の活用例（東寺 [文化財]）

英語解説文 [令和元年作成]・日本語仮訳

東寺は、死後は弘法大師（仏教の教義の大師の意）として知られるようになった有名な学者であり、建築家であり、能筆家であった僧空海（774–835）と密接に結びついている。空海は遣唐使の一員として 804 年に中国を訪れ、唐王朝（618–907）の支配下でインドから中国まで広まっていた密教の教義と儀式を研究した。密教は佛教の世界の宇宙を視覚的に描いたものである曼荼羅を巧みに使用することで知られる。曼荼羅は絵画、仏像の配置、建物など、東寺のいたるところで見ることができる。

空海は 806 年に帰国し、中国で学んだことを教え始めた。823 年、嵯峨天皇（786–842）は東寺を空海に下賜し別当に任じた。この時期までに彼の教義を真言宗という密教にしていた。空海は、真言宗だけが東寺で修行されることを条件にそのポストを受け入れた。これは、同じ寺院で複数の宗派が学ばれていた当時の一般的な慣行からの大胆な脱却であった。彼は別当として寺を改革し、講堂や五重塔などを含めた新しい建物を建てて拡大した。

中国語圏旅行者向けの情報

- ・ 多面的な才能を持つ空海と東寺の**関係性を追加**。
- ・ 東寺の特徴・見どころに焦点を当てる形で**再構成**。

英語圏旅行者向けの情報

- ・ 空海という日本の名僧の存在、空海と中国との縁、インド由来の密教（曼荼羅）については、英語圏旅行者にはあまり馴染みがないため追加していたが、中国語解説文では**割愛**。

中国語解説文・日本語仮訳

東寺は、有名な学者であり建築家、能筆家でもあった弘法大師（空海；774–835）とのゆかりの深い寺である。823 年、嵯峨天皇（786–842）は東寺を空海に下賜した。翌年、空海は東寺の別当になり、その後彼は東寺を真言密教の根本道場とするために、講堂や五重塔など新しい建造物を建立し、その規模を拡大した。東寺のいたるところで、仏教の世界の宇宙を視覚的に描いたものである曼荼羅の絵画、仏像の配置、建物などを見ることができる。

点線囲み：空海は、名僧というだけでなく、建築家、能筆家としても知られること、および空海と東寺との関係

実線囲み：東寺の特徴および一番の見どころ

英語解説文内の情報と地域から提示された日本語情報を合わせ、全体を 2 つの大きなまとまりにまとめ直すことで、読みやすくなるよう工夫した。

英語解説文の活用例（徳島市「観光」）

英語解説文〔令和2年作成〕・日本語仮訳

徳島は四国で2番目に長い吉野川の下流域の砂州に築かれた城下町として始まりました。現在の地名の多くは、周囲を川に囲まれていることから「島 (island)」という言葉が使われています。福島、寺島、住吉島などがその例です。川を水路にして物資を運ぶことで商人が栄えました。

1889年に徳島が正式に市制施行されたときには、全国で10番目に大きい都市でした。この地域は藍の栽培に適していました。藍染め産業が繁栄するにつれて、それは都市の経済発展を支援するのに役立ちました。

徳島の人々は、江戸時代(1603-1868)初期から盆踊り(夏の民衆踊り)を踊ってきました。藩当局は、住民が特定の近隣地域でのみ踊ることができるように厳しい規制を課しました。街頭に集合していたため、警察署の許可を得る必要があり、現在でもその状況は続いています。

1928年に徳島商工会議所が踊りの協賛を始め、観光地として瞬く間に成長しました。この頃から、夏の風物詩である「盆踊り」が、季節を問わずイベントや祝いの場所で踊られるようになったことから、「阿波踊り」という言葉が使われるようになりました。阿波は徳島の旧称です。1946年には「阿波踊り」という名称が正式なものとなり、復興して全国に広まっていきました。

中国語圏旅行者向けの情報

- ・地理関係、歴史的由来、地位評判など、**地域の独自性に富む内容が必要**。
- ・地域の日本語情報を合わせて一部内容を**追補**。

英語圏旅行者向けの情報

- ・漢字や踊りに対する規制に関する内容は、中国語圏旅行者にとっては過剰・冗長であり、**割愛**。

中国語解説文・日本語仮訳

徳島は、四国で2番目に長い川である吉野川の下流の中洲に築かれた城下町（城を中心に作られた都市）として始まり、多くの川に囲まれていました。この川を水路として商業が急速に発展しました。この地域は蓼藍（インディゴを多く含む植物）の栽培に適しており、藍染め産業が徳島の産業の柱となりました。1889年に徳島が正式に市制施行された当時、日本で10番目に大きな都市でした。

徳島では江戸時代（1603-1868）初期から盆踊り（旧暦7月15日のお盆の頃に開催される先祖供養と鎮送のための踊り）が行われており、1928年に徳島商工会議所が踊りの協賛を始めたことで、盆踊りは観光の目玉として瞬く間に成長しました。同時に、「盆踊り」に代わって「阿波おどり」（阿波は徳島の旧称）という名称が徐々に定着し、1946年に復活して全国に広まると、「阿波おどり」が正式な名称となりました。現在では、「阿波おどり」は日本三大盆踊りのひとつになっています。

点線囲み：徳島市の概要（地理的位置、歴史的由来、主要産業、全国的にみた地位）

実線囲み：阿波踊りの概要（歴史的由来、全国的にみた地位）

マーカー部：追記した情報（権威性）

解説文全体を2段落構成とし、第1段落では徳島市の概要、第2段落では阿波踊りの概要を簡潔にまとめることで、読みやすくなるよう工夫した。

ポイント 2

旅行者の興味・関心を把握する

中国語圏旅行者にとって、どのような特徴が興味・関心の対象になるのでしょうか。この点をよく理解し、中国語圏旅行者の興味を増進するような解説を作成してこそ、読み手にとって本当に役立ち、魅力のある情報提供となります。

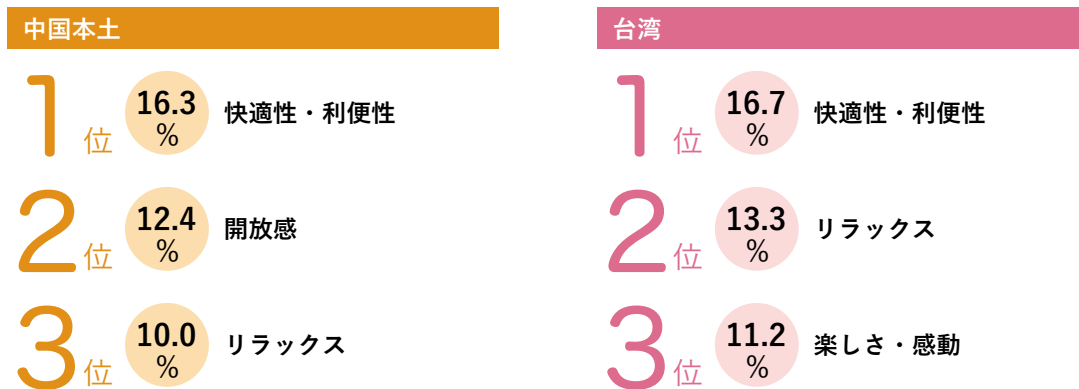
日本人と外国人では、日本の歴史、文化、自然等に関する地域や興味・関心のあり方が異なります。そのため、中国語圏旅行者の視点を考慮せず、地域（日本人）目線で訴求したい情報のみを提供するだけでは、地域の魅力、観光資源の魅力が十分に伝わらなくなってしまいます。そこで、中国語圏旅行者の興味・関心について調査し、解説文の満足度を向上させる要素を把握することが必要となります。

中国語圏旅行者が興味・関心を示す対象及び内容

本事業では、中国本土と台湾の訪日経験または訪日意向がある者を対象に、アンケート調査「中国語圏訪日外国人旅行者の訴求ポイントの把握に関する調査」を実施しました。その結果を分析し、中国語圏旅行者の興味関心を喚起できるポイントとして「権威性」「独自性」「享楽性」「実体験」「中国との縁」の5つのキーワードを抽出することができました（p.21 参照）。

アンケート調査の結果から、いくつかの項目を具体的に取り上げて見てみましょう。

日本旅行中に求めることや要素は何か



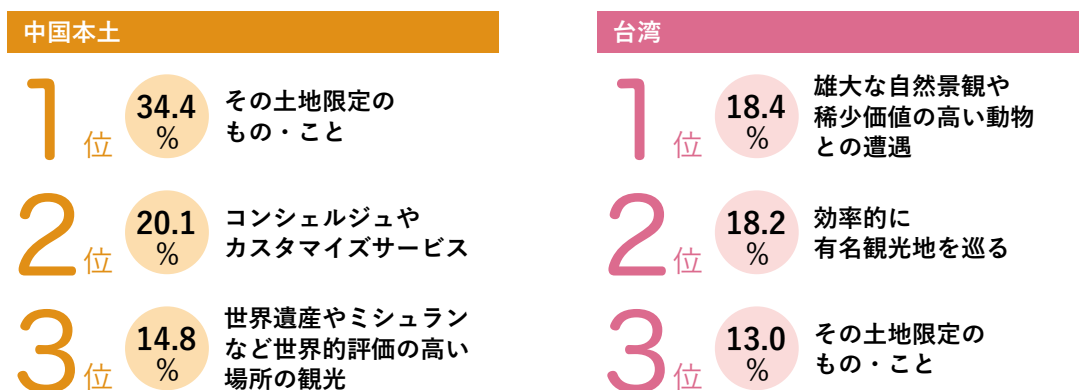
結果

「快適さ・利便性」が中国語圏旅行者の最も求める要素になっています。

多言語化やインターネット環境、キャッシュレス決済、公共交通機関の案内等のインフラ整備状況、気軽に楽しめる観光体験コンテンツの有無、宿泊施設に関しては、アクセスの良さ、部屋の大きさや部屋風呂の有無も訪問先を選択する重要な基準になっています。

令和2年度観光庁「地域観光資源の中国語解説整備支援事業」アンケート調査

日本旅行中に特に重要と感ずることは何か



結果

「稀少性・独自性」を有するものが中国語圏旅行者の重要視する要素になっています。中国本土の旅行者が最も重要視するのは「その土地限定のもの・こと」です。一方、台湾の旅行者は「雄大な自然景観や稀少価値の高い動物との遭遇」を多く挙げています。

令和2年度観光庁「地域観光資源の中国語解説整備支援事業」アンケート調査

〈文化財（神社仏閣）の観光地〉

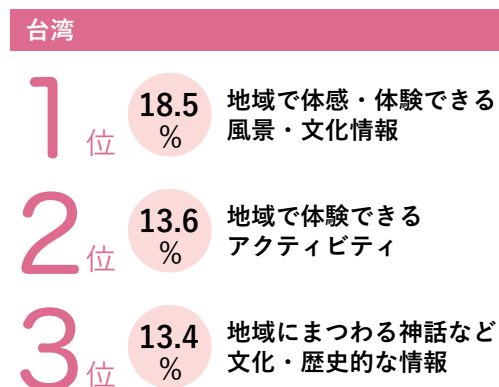
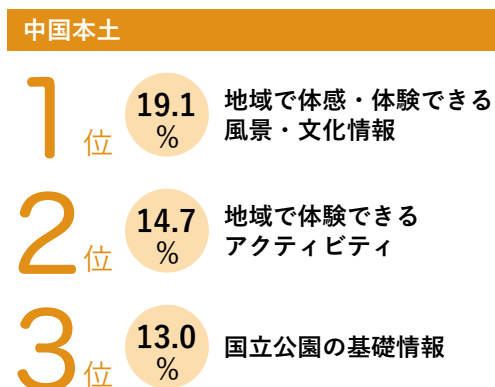


結果

文化財の持つ歴史的な意味や物語、その背景にある日本独自の精神性や文化等への高い関心が分かります。また、「その場で体験できる」アクティビティに対する興味がうかがえます。

令和2年度観光庁「地域観光資源の中国語解説整備支援事業」アンケート調査

〈自然（国立公園）の観光地〉



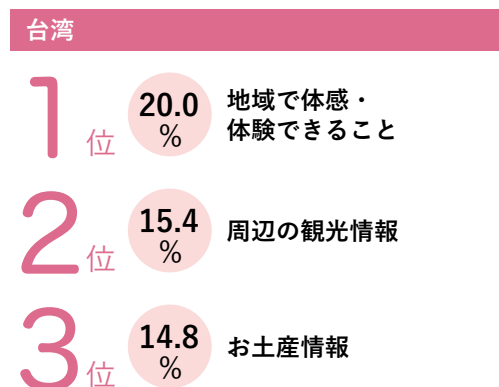
結果

それぞれの地域にまつわる風景や文化的背景、行事等、「独自性」を有し、かつ「実体験」できる情報が最も期待されています。

「地域で体感・体験できる風景や文化的情報」を得たいという声が多く、「地域で体験できるアクティビティ」がそれに次いでいます。

令和2年度観光庁「地域観光資源の中国語解説整備支援事業」アンケート調査

〈観光（温泉やスキーリゾート等）の観光地〉



結果

「実体感・実体験」できる地域の風景や文化、行事、グルメ等の情報に最も興味が集まっています。

令和2年度観光庁「地域観光資源の中国語解説整備支援事業」アンケート調査

参考 本事業で作成した「中国語圏旅行者の視点からの訴求ポイント」

本事業で実施した調査の結果と、これまでに培ってきた知見に基づいて、中国語圏旅行者にとって有益かつ魅力を感じるポイントについて、内容面・表現面の両面にわたってピックアップし、整理してみました。

▼内容面での訴求ポイント

求める価値	訴求ポイント	訴求内容
非日常 自慢	権威性	世間に高く評価され、世に広く名を知られる要素 例) 世界遺産、文化財、ミシュラン等世に公認された権威ある場所またはモノ、著名人と縁のある場所またはモノ等
	独自性	ほかのところにない、アピールポイントになりうる要素 例) 絶滅危惧種や地域限定等稀少性のあるモノ、発祥の地等物語として語れるモノ等
高級・快適 便利	享楽性	物理的に高い満足感を与えられる要素 例) 最適な観光ルート、最高の撮影ポイント、最高のグルメ・特産品、100% 源泉の温泉宿、ワンストップ手続きサービス等、飲食・宿泊・移動等の面において、最善最高のモノまたはサービス等
楽しさ 感動	体験	ディープに楽しめる要素 例) 写経や陶芸、茶道、釣り、着物着付、農業等、双方向型・体験型アクティビティ等
安心 親しみ	中国との縁	中国を感じさせられる要素 例) 中国由来、中国の影響を受けた場所または人物またはモノ、またはその逆で、日本が本家で、中国に伝わったモノ等

▼表現面での訴求ポイント

求める要素	表現テイスト
分かりやすさ	簡潔、平易、明瞭、リズム感のある解説文 例) 固有名詞や理解が難しい箇所などへの適切な注釈、中国語圏旅行者にとって馴染みのある表現、掲載する媒体に適した文字量、順を追った明解な文章構成など

ポイント 3

媒体の種類や特徴に応じた文章表現に留意する

解説文は、どのような場面であってもすべて同一でよい、というわけではありません。旅行者がその媒体をいつ、どのようにして、何のために利用するのかを考慮した上で、それぞれの媒体と利用シーンに応じた適切な文章表現を選ぶ必要があります。

そのためには、掲載する媒体の用途及び長所・短所を理解すること、旅行者の旅行シーン別に発信する情報を整理すること、媒体と利用シーンに応じて文体（文章のトーン&マナー）や文字数を調整すること、などが求められます。特徴と一致しない文体で書かれた解説文は、読み手に違和感を与えるだけでなく、情報自体の信頼性も損ねてしまう恐れがあります。

とりわけ中国語の場合、媒体だけでなく、地域や整備対象の特徴に適した文体及び文字数の設定が必要です（下記※印を参照）。また、中国語圏旅行者へのアンケート調査の結果（p. 11 参照）からも、難しい専門用語を多用する学术论文のような解説文ではなく、平易な説明と短い文章、美しい表現が好まれていることが分かります。したがって、「平易さ」と「美しさ」をいかにバランス良く融合させるかが、中国語解説文の魅力を高める重要なポイントのひとつといえます。

※日本語の解説文 400 字の記述内容は、おおむね中国語では 350 字前後、英語では 220 語前後となります。

● 媒体ごとの特徴に応じた文体（トーン&マナー）と文字数

WEB ページ  旅前	【主な特徴】 ・全体像の把握が可能 ・多くの情報掲載が可能 【この媒体で推奨される文体と文字数】 ・地域の特徴を鮮明に分かるようにする ・多くの情報を順を追って分かりやすく整理する ・訴求要素の順番、表現の強弱のつけ方に気を付ける ・1 解説文の文字数は、特に規定しない
SNS  旅前 & 旅中	【主な特徴】 ・全体像の把握が可能 ・多くの情報掲載が可能 ・携帯、持ち帰りが可能 ・絵や写真と共に、簡潔な情報掲載が可能 【この媒体で推奨される文体と文字数】 ・地域の特徴を鮮明に分かるようにする ・多くの情報を順を追って分かりやすく整理する ・訴求要素の順番、表現の強弱のつけ方に気を付ける ・分かりやすく、親しみやすい表現にする ・1 解説文の文字数は、特に規定しない

パンフレット
QRコード

旅前

&

旅中

【主な特徴】

- ・携帯、持ち帰りが可能
- ・絵や写真とともに、簡潔な情報掲載が可能

【この媒体で推奨される文体と文字数】

- ・地域の特徴を鮮明に分かるようにする
- ・地域の全体像を把握でき、かつ拡散しやすいようになるべく簡潔かつインパクトのある表現にする
- ・1 解説文の文字数は、なるべく 500 文字以内とする

解説看板
パネル
キャプション

旅中

【主な特徴】

- ・目の前の対象に関する情報提供が可能

【この媒体で推奨される文体と文字数】

- ・他言語とのバランスを重要視する
- ・簡潔に、分かりやすい文章にする
- ・1 解説文の文字数は、なるべく 300 文字以内とする

音声ガイド



旅中

【主な特徴】

- ・聴覚を通して情報提供が可能

【この媒体で推奨される文体と文字数】

- ・限られた時間のなかで聞きとれ、かつ理解できる情報量にする
- ・分かりやすく親しみやすい話し言葉にする
- ・1 解説文の文字数は、なるべく 500 文字以内とする

映像



旅中

【主な特徴】

- ・視覚と聴覚を通して情報提供が可能

【この媒体で推奨される文体と文字数】

- ・限られた時間のなかで聞きとれ、かつ理解できる情報量にする
- ・簡潔で洗練されたインパクトのある表現にするように心がける
- ・字幕の場合、1 行に 20 文字以下とする

● 分野ごとに推奨される文体例

文化財	格調を備えた平易な文体 古き日本の伝統文化に相応しい品位を保ちつつ、読みやすい文体が望ましい。
自然	無駄がなく、流れるように読める美しい文体 美しい自然に相応しく、滑らかで、平易で、かつ親しみやすい文体が望ましい。
観光	軽快さを持ち合わせた可読性の高い文体 複合観光地域に相応しく、楽しく、明るく、ワクワクさせられ、読みやすく軽やかな文体が望ましい。

● 文体規定書と文体の実例

中国語圏旅行者にとって魅力的な解説文とするためには、中国語に翻訳する前に英語解説文の内容を再検討することが必要です。その際、対象の地域や想定使用媒体の特徴に最も適した文体（文章のトーン＆マナー）及び文字数を定めた「文体規定書」を作成し、地域担当者及び解説作成担当の専門人材の間で共有しておくこと、意思統一をはかりやすくなります。

ここでは、実際に文体規定書を作成して中国語解説文の整備を行った事例を見てみましょう。

参考 ▶ 本事業で策定した「媒体別地域別中国語作成文体規定書」の例

想定媒体	文体（トーン＆マナー）
カテゴリ： 文化財	地域番号：001 地域名：東寺
・デジタル サイネージ （看板）	〈全体〉 格調を備えた平易な文体 ・古き日本の伝統文化に相応しい品位を保ちつつ、読みやすい文体が望ましい。 【詳細】 ・上記全体の文体を大前提としつつ、中国語圏旅行者にとって説明不要と思われる箇所（中国語読み等）を省き、仏教関連箇所は中国語圏旅行者が慣れ親しんだ表現にする。 【文字数】 ・地域から文字数をなるべく少なくすることのご要望があり、内容を整理し、できるだけ洗練された表現を用いて、1 解説文を 300 文字以内に抑える。

〈「文体規定書」に基づいた中国語の文体〉

日光、月光菩薩

传统的药师如来像，身侧常随两尊胁侍像，即日光、月光二菩萨，意为日月之光。据佛经记载，如来因誓愿普渡众生，而推迟自身开悟，以致暂留人间。众菩萨像，如日光、月光菩萨，多头戴宝冠，衣饰华美；而佛陀塑像则身着一袭长衣，素净不加粉饰。两者各异其趣，交相辉映。

〈中国語解説文の日本語仮訳〉

日光菩薩と月光菩薩

伝統的な薬師如来像は、かたわらに脇侍像として、日の光と月の光を表す日光菩薩・月光菩薩を従えていることが通常である。仏教の經典の記載によると、如来は衆生を涅槃へと導くことを誓願して、自らの悟りを開くことを先に延ばし、しばしこの世に留まっているという。多くの菩薩像は、この日光・月光菩薩のように宝冠をいただき、華やかな衣で身を飾るが、如来像は長衣を身に纏って簡素であり、装飾を加えていないため、両者はそれぞれ異なる趣を有しつつ、互いに照り映えている。

▼作成のポイント

中国語圏旅行者にとって理解しやすい文章の流れを意識して、全体の構成と内容を整理している。例えば「両者は極めて対照的である」という結びの部分にかえて、「それぞれ異なる趣を有しつつ、互いに照り映えている」とすることで、3体の仏像が醸し出す世界観を伝える工夫を施している。また、全体の文字数を抑えながら、高い格調を備えつつも読みやすい文体にするため、できるだけ中国語圏旅行者が馴染み深い言葉（仏教用語、四字熟語等）を選ぶ工夫を行っている。

「翻訳調」に注意！

元となる解説文はとても分かりやすい文章なのに、翻訳してみると、中国語圏旅行者にはなじまない解説文になってしまった。——なかには、こんなケースも見受けられるようです。

原文と照らし合わせた翻訳としては「適訳」であっても、対象となる観光客のニーズにきちんと応えられているかを再確認してみましょう。

一度仕上げた解説文は、ネイティブの視点から再度吟味し、より自然な表現にブラッシュアップすることが必要です。その際、下記の問題点に注意してみましょう。

① 文が過度に長くなっていないか。

→原文の意味をふまえつつ、長い文は複数の短文に切って、文を再構成してみる。

② 原文に引きずられて、前後のつながりや全体の流れが不自然になっていないか。

→いったん原文から離れ、文章の一貫した流れやつながりを意識して、解説文を繰り返し読み直してみる。

③ 接続詞や条件句などの使用により、構文が複雑になっていないか。

→意味上の前後のつながりがわかりづらくなったり、回りくどくなったりしている箇所がないかを確認する。前後の意味関係と呼応させながら組み立てるよう工夫する。

④ 長い連体修飾語（定語）が、内容理解の妨げになっていないか。

→中国語は、長い連体修飾語を苦手とする特徴がある。連体修飾語が長くなっている場合は、それを回避するように文を組み立て直してみる。

⑤ 中国語として馴染みがなく、定着していない語句を使用していないか。

→中国語では、漢字を組み合わせることで語句を新たに作成できるので、ついつい新語を作ってしまうがちである。しかし、安易な造語は、意味が不的確な、ぎこちない表現になってしまう恐れがある。

→原文の意味をよく理解した上で、定着した適切な語句を慎重に選んで使うよう工夫してみる。

ポイント 4

国・地域による中国語の違いを理解する

中国語には、7つ以上の方言があるとされています。また、使用される漢字の形態にも、中国本土を中心に使用される簡体字と、台湾、香港を中心に使用される繁体字の2種類があります。さらに、台湾と香港ではともに繁体字を用いますが、背景となる方言等が異なるため、用語、表現、区切り符号の使い方などにも違いがあります。こうした事情から、簡体字と繁体字の文の違いを考慮せず、単純に漢字の字体のみを置き換えた文章では、意味が通じなくなりかねません。簡体字の文と繁体字の文の違いを正しく理解し、適切に解説文を作成することが極めて重要です。

なお、台湾繁体字と香港繁体字は類似度が高いにもかかわらず、用語や表現に異なるところが多いので、より高い満足度を得るためには、ターゲット層を把握して整備することが重要です。

簡体字と繁体字の主な違い

	簡体字	繁体字	
使用する国と地域	中国本土、シンガポール、マレーシア	台湾	香港、マカオ
言語の根源	初期近代中国語（1932年） ＝北平（北京）方言 ↓ 近代中国語（1951年） 発音：北京 表現：北方エリア 文法：近代口語体	初期近代中国語 ＋ 閩南（福建）方言 ＋ 日本語	初期近代中国語 ＋ 粵（広東）方言
字体に関する規範	《簡化字総表》	『国字標準字体』	『常用字字形表』
区切り符号の規範	《標点符号用法》	『標點符號手冊』	『標點符號用法』
用語の特徴	初期近代中国語時代の用語は、計量単位等の一部を除いてほぼ同じ。それ以降の用語（とりわけ外来語）には相互に大きく異なっている。		
表現の特徴	シンプルでストレート	周到で含蓄がある 古典漢文と口語体 が融合した文調	左記両者の中間的な特徴を有する
	※なお、1980年代以後、中国語圏各地域間の交流が活発となり、言語面でも相互に影響し合った結果、上記3種類の表現の差は縮小傾向にある。		

参考 漢字の字体の違いの例

日本語	簡体字	繁体字	
	大陸	台湾	香港
嘆	叹	嘆	歎
為	为	為	爲
衛	卫	衛	衛
粧	妆	妝	粧
峰	峰	峰	峯
線	线	線	綫

参考 地域ごとの用語の違いの例

日本語	英語 (外来語のみ)	簡体字	繁体字	
		大陸	台湾	香港
地下鉄	—	地铁	捷運	地鐵
自転車	—	自行车	自行車	單車
歩行者天国	—	步行街	行人徒步區	行人專用區
紀元	—	公元	西元	公元
村	—	村庄	聚落	村落
鍵	—	钥匙	鑰匙	鎖匙
メートル	meter	米	公尺	米
センチ	centimeter	厘米	公分	厘米
タクシー	taxi	出租车	計程車	的士
バス	bus	公共汽车	公車	巴士
インフォメーション センター	information center	游客信息中心	遊客資訊中心	旅客諮詢中心
フロント	reception	前台	櫃台	前台
ツインルーム	twin room	标准间	雙人房	雙床雙人房
プレゼント	present	礼物	伴手禮	手信
ブログ	blog	博客	部落格	博客

専門性と経験を備えた人材を確保する

先に挙げた1～4のポイントに沿って、中国語圏旅行者の立場に立った情報を盛り込みつつ中国語解説文を整備するには、専門性と経験を備えた人材を確保することが不可欠です。

人材の確保にあたっては、解説文を作成する対象物の特性（文化財、自然、食文化、伝統、芸能等）と、専門人材が得意とする地域・分野が合致していることが重要です。

専門人材の起用に求められる要件

本事業で実際に起用した要件を参考に示します。地域においてすべての専門人材を確保することは困難であることが想定されますが、可能な限り下記の要件を満たす人材を起用することを推奨します。

翻訳者



【役割】英語解説文及びエディターが修正した日本語原稿を元に、地域と媒体の特徴に適した文体表現を用いて、中国語（簡体字・台湾繁体字）に翻訳編集する。

【要件】

- ・中国語（簡体字または台湾繁体字）を母国語とする
- ・大卒以上の学歴
- ・5年以上の英中または英日翻訳歴を持つ

エディター
(メイン)

【役割】英語解説文を中国語圏旅行者の視点から内容を検証し、必要に応じて取捨、追記、編集する。また必要に応じて、中国語解説文のブラッシュアップをサポート。

【要件】

- ・中国語（簡体字または台湾繁体字）を母国語とする
- ・ネイティブレベルに近い英語力または日本語力を有する
- ・中国語圏訪日客の興味関心を熟知している
- ・日本の自然、文化財、観光等の分野に一定の知見を持つ

エディター
(サブ)

【役割】英語解説文の事実確認を実施し、メインエディターの作業をサポート。

【要件】

- ・日本語を母国語とする
- ・ネイティブレベルに近い英語力を有する
- ・日本の自然、文化財、観光等の分野に一定の知見を持つ

校閲者



【役割】 翻訳者が翻訳し、エディターが編集した中国語解説文（簡体字と台湾繁体字）の意味や内容について、誤用や事実誤認などの有無を確認し、翻訳者に修正を指示する。

【要件】

- ・ 中国語（簡体字または台湾繁体字）を母国語とする
- ・ 大卒以上の学歴
- ・ 5年以上の書籍執筆または編集歴を持つ

スタイル チェッカー



【役割】 翻訳者が翻訳し、エディターが編集した中国語解説文（簡体字と台湾繁体字）について、本事業の『スタイルマニュアル』に基づき、ライティングスタイルの統一を行う。

【要件】

- ・ 中国語（簡体字または台湾繁体字）を母国語とする
- ・ 本事業の『スタイルマニュアル』の内容を理解し校閲できる

ディレクター



【役割】 全体企画（検証基準設定・スタイル文体策定）、事務局への定期進捗報告のまとめ及び各作成実務チームへのオリエンテーション、進捗・危機管理を行う。

【要件】

- ・ 中国語（簡体字または台湾繁体字）を母国語またはそれに近いレベルで運用できる
- ・ 事業の企画・執行管理の経験が豊富にある
- ・ 事業全体の進捗を円滑に遂行できる

第 3 章

中国語解説文作成の 進め方

中国語解説文は、具体的にどのような手順で
作成すればよいでしょうか？

また、その準備にはどのくらいの期間が必要でしょうか？

中国語解説文の作成の手順をステップに分けて詳細に説明します。

中国語解説文作成手順の 全体的な流れ

本事業は以下の作成工程で実施しました。質の高い解説文を効率よく作成するためには、事業に
当たる地域においても、専門人材においても、各ステップの内容を十分に理解することが重要です。

【専門人材の役割】

ディレクター：関係者折衝

校閲者：翻訳チェック

エディター：編集・推敲

スタイルチェッカー：スタイルチェック

翻訳者：英語からの翻訳



事業の主体者もメインとなって推進することの重要性

橋本・伊都広域観光協議会（和歌山県、平成 31 年／令和元年度参加）の談話

専門人材へ上質な情報を提供し、それを元に書き起こされた解説文を地域と内容監修者が確認。大事な工程です。

日本人向けの解説文を英語に直訳しただけでは訪日外国人旅行者には伝わらないのではないかとずっと思っていました。そのため、現地取材では外国人ライターにどれだけ観光地の特性をインプットできるかがポイントでした。加えて、納品前に解説文の記述について事実確認を行うことも我々の大事な工程でした。本事業を通じて、訪日外国人旅行者の満足度を考えていくプロセスを体験ができたことは勉強になりました。この事業をきっかけに、訪日外国人旅行者に高野山をきちんと理解してもらい、リピートしてもらう。そのことが地域の子どもの英語学習にもつながっていき、観光客を受け入れる人材も流出しなくなる。そういった流れができれば、本当に高野山は持続可能な観光地域になっていくと思っています。

【凡例】 ◎：主担当 ●：担当 (●)：必要に応じて

STEP 4

中国語翻訳と日本語訳

内容

翻訳（一次訳→校閲→日本語仮訳）

担当者

- ディレクター
- ◎ 翻訳者
- ◎ エディター（メイン）
- ◎ エディター（サブ）
- ◎ 校閲者

STEP 5

地域確認（2 回目）

内容

日本語仮訳の内容確認
中国語監修者がいる場合、
中国語解説文の確認

担当者

- ディレクター
- (●) エディター（メイン）
- (●) エディター（サブ）

STEP 6

中国語解説文と日本語仮訳の最終仕上げ

内容

地域の意見を精査し、
最終修正調整を行う

担当者

- ディレクター
- ◎ 翻訳者
- (●) エディター（メイン）
- (●) エディター（サブ）
- ◎ 校閲者
- ◎ スタイルチェッカー

完了の 2 ヶ月前

完了の 1 ヶ月前

完了の 2 週間前

完了

STEP 7 地域納品

中国語向けにふさわしい内容の 解説文の下準備（STEP 1～STEP 3）

事前準備

STEP 1

専門人材の確保

本事業では、観光庁多言語事業の英語解説文を活用し、中国語解説文の作成を行うために、下記の人材を起用することとします。それぞれの人材は、中国語を母国語とするほか、英語または日本語のネイティブレベルに近い言語力を有し、かつ、業務経験を豊富に持ち合わせていることを要件とします（詳細は pp. 29-30、「専門人材の起用に求められる要件」を参照）。

- ・ 翻訳者
- ・ エディター
- ・ 校閲者
- ・ スタイルチェッカー
- ・ ディレクター



内容検証

STEP 2

英語解説文の検証

〈ディレクター・エディター（・有識者）〉

対象となる読み手を明確にイメージしながら、既存の英語解説文の内容を検討し、中国語圏旅行者の視点に立って①読み手が魅力と感じる要素の追記（事実確認も含む）及び②より分かりやすくするための表現の文体（トーン＆マナー）設定の２点における検証作業を行います。この作業を通じて、中国語圏旅行者向けの訴求ポイント等の調整を行います。

検証結果を示す際には、信頼に値する根拠を併せて明記することが必要です。

また、地域での解説文の内容確認に供するため、解説文の日本語仮訳を作成します。

※地域に外国語を閲読できる人材が十分にいない場合に備え、中国語解説文の要素を確認できるように日本語仮訳を用いて地域確認を行います。なお、この段階での日本語仮訳は、中国語解説文に盛り込むべき要素についての内容確認を目的とします。

STEP 3

地域確認（1回目）

確認の流れとポイント

専門人材から地域へ

中国語圏旅行者が魅力とを感じる事項の追記等、調整すべき内容や表現に関する提案を行います。



地域側の対応

専門人材からの提案について、適切に対応・回答します。

- ・差支えがないか、事実に齟齬がないかを確認します。
- ・指摘内容や修正依頼内容が適切に反映されているかどうかを確認します。
- ・専門人材側に修正依頼する際、指摘事項に関する根拠資料等も添付して回答します。



専門人材側の対応

地域からの回答を反映し、解説文に盛り込む内容及び文体（文章のトーン＆マナー）の設定を確定します。

地域確認の実例を次ページで紹介しています ▶

参考 本事業の地域確認①の実例（地域に渡して確認を受けるまで）

（1）専門人材が提案する中国語圏旅行者が魅力とを感じる追記や調整内容、表現の設定に対して、差支えがないか、事実と齟齬がないかを地域側が確認する

※地域と専門人材の双方が確認しやすくするため、追記・調整・修正・承認した箇所を色分けする

〈英語解説文〉

Hitsujisaru Turret

In old Japan, the points of the compass were sometimes expressed using the 12 animals of the Chinese zodiac. The Chinese characters for ram (*hitsuji*) and monkey (*saru*) indicate the southwest—the direction this turret (*yagura*) stands in relation to the castle-keep area, hence the name. The original turret was dismantled in the late nineteenth century. The present one is a 2003 replica based on drawings from the Edo period (1603–1867) and photographs from the Meiji era (1868–1912). From the outside, the turret appears to have two floors, but there are actually three. These turrets were generally used for storage in peacetime, but were used for defense in times of war. Samurai would fire through the loopholes and the stone-drop windows. In the enclosure immediately behind the Hitsujisaru Turret was the magistrate's office (*bugyomaru*).

〈色分け例〉

- ・新規追記: 赤文字
- ・調整箇所: 青文字

〈英語解説文の日本語仮訳〉

未申櫓

昔の日本では、方位を中国起源の干支、十二支の動物で表すことがありました。「未」（ヒツジ）と「申」（サル）という漢字は南西の方角を意味していることから、天守閣からみそ「本丸」※北西部にある「西出丸」の南西に位置するこの櫓（偵察や射撃のための高樓）の名前の由来になっています。築城当時の櫓は19世紀後半に取り壊されました。現在の櫓は、江戸時代（1603-1867）の絵画と明治時代（1868-1912）の写真をもとに2003年に復元されたものです。

外からは2階建てに見えますが、実際には3階建てになっています。平時には一般的に保管庫として使われていましたが、戦時には防御のために使われていました。武士は、櫓の銃眼や「石落とし」（石を落下させたり熱湯を放ったり、矢を射下ろしたりする所）を通して攻撃していたのです。未申櫓の背後の構内には奉行所（奉行丸）がありました。

※「丸」とは城郭の内部、防衛用の空間のこと。「本丸」は通常、天守と城主の居館がある最も重要な空間。

＜中国との縁＞
中国語圏旅行者にとって既知のことが、触れることでより親近感が増すと考えます。

＜書き換えのご確認＞
中国語圏旅行者が同一敷地内の各施設の地理的位置関係を把握する際に、目印となるものをなるべくひとつにする慣習があるため、ここはNO.007を参照し、敷地のほぼ中心に位置する「西出丸」を目印とする対象にしたほうがより分かりやすいと考えますが、左記の内容の適否をご確認ください。

＜分かりやすさ＞
中国語圏旅行者にとって、あまり馴染みのない固有名詞は、左記のように簡単な注釈をつけることで、より理解しやすいと考えます。

・「丸」の説明…「その位置から内側から本丸、二の丸、三の丸などと称する。」もあるとよりイメージが湧きやすいと思います。

・ほかはOKです。

エディターの検証結果
内容と出典

地域の見解

参考 本事業の地域確認①の実例（指摘内容への対応と追加・調整）

(2) 専門人材から指摘内容の確認等があったら、適切に対応し、指摘内容や修正依頼内容の反映状況を確認する。専門人材は地域からの回答を反映し、解説文に盛り込む内容及び文体（文章のトーン＆マナー）の設定を確定する

「媒体別地域別中国語作成文体規定書」に基づく中国語解説文の文体設定

媒体対象者	文体（トーン＆マナー）
WEB	・ 地域の特徴を鮮明に分かるようにする ・ 多くの情報を起承転結で分かりやすく整理する ・ 訴求要素の順番、表現の強弱のつけ方に気を付ける ・ 1 解説文の文字数を特に規定しない
看板	・ 他言語とのバランスを重要視する ・ 簡潔に、分かりやすい文章にする ・ 1 解説文の文字数をなるべく 300 文字以内とする
内容（観光）	軽快さを持ち合わせた可読性の高い文体 ・ 複合観光地域に相応しく、楽しく、明るく、ワクワクさせられ、読みやすく軽やかな文体が望ましい。 ・ 上記全体トーン＆マナーを大前提としつつ、自然・レジャー・グルメはワクワク、楽しさを、温泉は安らぎ感、温かみを、歴史文化は平易、分かりやすさを意識して、解説文の内容に併せて、テイストを調整する。 ・ 観光分野ではあるが、歴史文化に関する内容が多く、格調を備えた平易な表現にするよう心がける。
使用フォント	・ 簡体字：Source Han Sans CN Normal ・ 繁体字：Source Han Sans TW Normal ・ 日本語：Meiryo UI ・ アルファベット / 英数字：Times New Roman

＜色分け例＞

- ・ 新規追記：赤文字
- ・ 調整箇所：青文字
- ・ 確認①修正：黄色蛍光文字

＜追加・調整後の英語解説文＞

Hitsujisaru Turret

In old Japan, the points of the compass were sometimes expressed using the 12 animals of the Chinese (起源の) zodiac. The Chinese characters for ram (*hitsuji*) and monkey (*saru*) indicate the southwest—the direction this turret (*yagura* : 偵察や射撃のための高樓) stands in relation to the ~~castle-keep area~~ Nishidemaru[※], hence the name. The original turret was dismantled in the late nineteenth century. The present one is a 2003 replica based on drawings from the Edo period (1603–1867) and photographs from the Meiji era (1868–1912). From the outside, the turret appears to have two floors, but there are actually three. These turrets were generally used for storage in peacetime, but were used for defense in times of war. Samurai would fire through the loopholes and the stone-drop windows (石を落下させたり熱湯を放ったり、矢を射下ろしたりする所) . In the enclosure immediately behind the Hitsujisaru Turret was the magistrate's office (*bugyomaru*).

※「西出丸」は「本丸」の北西部にある。「丸」とは城郭の内部、防衛用の空間のこと。内側から「本丸」、「二の丸」、「三の丸」などと称し、「本丸」は通常、天守と城主の居館がある最も重要な空間。）。

＜追加・調整後の日本語仮訳＞

未申櫓

昔の日本では、方位を中国起源の干支、十二支の動物で表すことがありました。「未」（ヒツジ）と「申」（サル）という漢字は南西の方角を意味していることから、「西出丸」[※]の南西に位置するこの櫓（偵察や射撃のための高樓）の名前の由来になっています。築城当時の櫓は19世紀後半に取り壊されました。現在の櫓は、江戸時代（1603-1867）の絵画と明治時代（1868-1912）の写真をもとに2003年に復元されたものです。

外からは2階建てに見えますが、実際には3階建てになっています。平時には一般的に保管庫として使われていましたが、戦時には防御のために使われていました。武士は、櫓の銃眼や「石落とし」（石を落下させたり熱湯を放ったり、矢を射下ろしたりする所）を通して攻撃していたのです。未申櫓の背後の構内には奉行所（奉行丸）がありました。

※「西出丸」は「本丸」の北西部にある。「丸」とは城郭の内部、防衛用の空間のこと。内側から「本丸」、「二の丸」、「三の丸」などと称し、「本丸」は通常、天守と城主の居館がある最も重要な空間。

中国語解説文の作成と確認 (STEP 4 ～ STEP 5)

中国語化

STEP 4

中国語翻訳と日本語仮訳

エディターの検証後の解説文は、地域の確認と了承を得た後に、中国語への翻訳を開始します。中国語翻訳は簡体字と台湾繁体字の2チームに分け、以下の手順を踏んで中国語解説文を作成します。その際、「媒体別地域別中国語作成文体規定書」(pp. 24-25 参照)と「スタイル規定」(別冊『ライティング・スタイルマニュアル』参照)に従うこととします。最後に、編集を終えた中国語の日本語仮訳を作成します。

本事業では、英中翻訳を基本としながら、一部日本語の追記・調整内容もあるため、日中翻訳の知見を有する専門人材(翻訳者、エディター、校閲者)の参加が必要です。

なお本事業では、全体の統一化、効率化、品質担保等を考慮し、以下の通り、まず簡体字から着手し、一次訳ができた段階で台湾繁体字に展開しました。

	簡体字	台湾繁体字
手順1 翻訳・ 文字変換	【翻訳】 英語解説文 + 調整箇所の日本語に準じて 英中・日中翻訳者による 翻訳編集	【文字変換】 簡体字手順1の完成原稿に 対して台湾繁体字に変換 + 英中・日中翻訳者による 用語と表現の調整、訳文の確認
手順2 校閲	手順1の完成原稿に対して 校閲者による専門用語・ 文体に対するチェック & 全体のブラッシュアップ	手順1の完成原稿に対して 校閲者による専門用語・ 文体に対するチェック & 全体のブラッシュアップ
手順3 日本語仮訳	手順2の完成原稿に準じて 翻訳者による日本語仮訳作成	
手順4 初稿完成	手順2と3の完成原稿を合体させ 中国語解説文及び日本語仮訳の初稿を完成させる	

STEP 5

地域確認（2回目）

地域での2回目の確認作業にあたるこの段階では、中国語解説文を中心に、「地域確認（1回目）」において承認した変更内容が適切に反映されているかどうかを確認するとともに、中国語解説文の表現や文体（文章のトーン＆マナー）等についての校閲を行います。

この段階での確認作業は、中国語解説文の品質を担保する上で最も重要です。そのため、解説文を作成する専門人材とは別に、地域（観光資源の所有者や管理者等解説文を整備しようとする者）においても中国語（簡体字・台湾繁体字）で解説文を監修・校閲できる者を確保することが望まれます。しかし、地域でそのような人材の確保ができない場合は、制作事業者と協議の上、制作事業者が手配することとします。その他にも、地域において中国語（簡体字・台湾繁体字）のネイティブ話者の校閲者を確保し、第三者チェックを行うことが望ましいでしょう（これらの人材の詳細要件は pp. 29-30、「専門人材の起用に求められる要件」を参照）。

確認の流れとポイント

専門人材から地域へ

作成した中国語解説文（簡体字・台湾繁体字）及びその日本語仮訳を、地域側の確認用に送付します。



地域側の対応

新規追記、調整した箇所も含む内容全体について、事実に齟齬がないかを確認します。

- ・（地域確認1回目と同様に）専門人材側への修正依頼や指摘事項がある場合は、根拠資料等も添付して回答します。
- ・地域確認1回目・2回目で指摘した内容について、専門人材から再確認依頼やフィードバック等があれば適切に対応し、指摘内容や修正依頼内容が適切に反映されているかどうかを確認します。

地域確認の実例を次ページで紹介しています ▶

参考 本事業の地域確認②の実例（地域に渡して確認を受けるまで）

(1) 地域は中国語解説文（簡体字・台湾繁体字）及びその日本語仮訳に対して、新規追記、調整した箇所も含めて、全体の内容が事実と齟齬がないかを確認。地域に中国語のネイティブ話者がいる場合、中国語解説文の内容や表現が中国語圏旅行者にとって分かりやすいものになっているかをチェックする。

※地域と専門人材の双方が確認しやすくするため、追記・調整、修正・承認した箇所を色分けする

〈中国語・簡体字〉

未申櫓

過去、日本有时会用起源于中国的十二生肖来表示方位。“未”（羊）和“申”（猴）表示西南方向，因此这座位于“西出丸”※西南角的建筑被称为“未申櫓”，櫓是用于瞭望、攻击的塔楼。最初的塔楼在19世纪晚期被拆除，现在的建筑是2003年根据江户时代（1603-1867）的绘画和明治时代（1868-1912）的照片复制而成。

从外面看，塔楼是双层，但实际上有三层。这些塔楼在和平时期用于储存物资，战时则用作防御。武士可以通过塔楼上的枪眼和落石窗（投掷石块、倾泻沸水或射箭的窗口）攻击。紧邻未申櫓背后的是奉行所（也称“奉行丸”），即地方长官的衙门。

※“西出丸”位于“本丸”的西北方。“丸”是指城堡内的防御空间。城堡从内至外通常有“本丸”、“二之丸”、“三之丸”；其中“本丸”是城堡中最重要的区域，多为天守和城主的住所。

＜色分け例＞

- ・新規追記: 赤文字
- ・調整箇所: 青文字
- ・確認①修正: 黄色蛍光文字

【修正指示】

「絵画」だと風景画のようなものをイメージされるかと思うので、「平面図」の中国語に修正をお願いいたします。繁体字同様。

【修正指示】

「射箭口」に修正をお願いいたします。繁体字同様。

〈中国語解説文の日本語仮訳〉

未申櫓

昔の日本では、方位を中国起源の干支、十二支の動物で表すことがありました。「未」（ヒツジ）と「申」（サル）という漢字は南西の方角を意味していることから、「西出丸」※の南西に位置するこの櫓（偵察や射撃のための高樓）の名前の由来になっています。築城当時の櫓は19世紀後半に取り壊されました。現在の櫓は、江戸時代（1603-1867）の絵画と明治時代（1868-1912）の写真をもとに2003年に復元されたものです。

外からは2階建てに見えますが、実際には3階建てになっています。平時には一般的に保管庫として使われていましたが、戦時には防御のために使われていました。武士は、櫓の銃眼や「石落とし」（石を落下させたり熱湯を放ったり、矢を射下ろしたりする所）を通して攻撃していたのです。未申櫓の背後の構内には奉行所（奉行丸）がありました。

※「西出丸」は「本丸」の北西部にある。「丸」とは城郭の内部、防衛用の空間のこと。内側から「本丸」、「二の丸」、「三の丸」などと称し、「本丸」は通常、天守と城主の居館がある最も重要な空間。

【修正指示】

「絵画」だと風景画のようなものをイメージされるかと思うので、「平面図」に修正をお願いいたします。

地域の見解

参考 本事業の地域確認②の実例（指摘内容への対応と追加・調整）

(2) 専門人材から指摘内容の確認またはフィードバックがあったら、適切に対応し、指摘内容や修正依頼内容の反映状況を確認する

<色分け例>

- ・新規追記: 赤文字
- ・調整箇所: 青文字
- ・確認①修正: 黄色蛍光文字
- ・確認②修正: 水色蛍光文字

<中国語・簡体字>

未申櫓

過去、日本有时会用起源于中国的十二生肖来表示方位。“未”（羊）和“申”（猴）表示西南方向，因此这座位于“西出丸”※西南角的建筑被称为“未申櫓”，櫓是用于瞭望、攻击的塔楼。最初的塔楼在19世纪晚期被拆除，现在的建筑是2003年根据江户时代（1603-1867）的平面图和明治时代（1868-1912）的照片复制而成。

从外面看，塔楼是双层，但实际上有三层。这些塔楼在和平时期用于储存物资，战时则用作防御。武士可以通过塔楼上的枪眼和射箭口（投掷石块、倾泻沸水或射箭的窗口）攻击。紧邻未申櫓背后的是奉行所（也称“奉行丸”），即地方长官的衙门。

※“西出丸”位于“本丸”的西北方。“丸”是指城堡内的防御空间。城堡从内至外通常有“本丸”、“二之丸”、“三之丸”，其中“本丸”是城堡中最重要的区域，多为天守和城主的住所。

<中国語・台湾繁体字>

未申櫓

在舊時日本，有時會用起源於中國的十二生肖來表示方位。「未」（羊）和「申」（猴）表示西南方向，因此這座位於「西出丸」※西南角的建築被稱為「未申櫓」，櫓是用於瞭望、攻擊的塔樓。最初的塔樓在19世紀晚期被拆除，現在的建築是2003年根據江戶時代（1603-1867）的平面圖和明治時代（1868-1912）的照片複製而成。

從外觀來看，塔樓是雙層，但實際上有三層。這些塔樓在和平時期用於儲存物資，戰時則用作防禦。武士可以透過塔樓上的槍眼和射箭口（投擲石塊、傾瀉沸水或射箭的窗口）攻擊。緊鄰未申櫓背後的是奉行所（也稱「奉行丸」），即地方長官的衙門。

※「西出丸」位於「本丸」西北方。「丸」是指城內的防禦空間。城從內至外通常有「本丸」、「二之丸」、「三之丸」，其中「本丸」是城中最重要的區域，多為天守和城主的住所。

<日本語仮訳>

未申櫓

昔の日本では、方位を中国起源の干支、十二支の動物で表すことがありました。「未」（ヒツジ）と「申」（サル）という漢字は南西の方角を意味していることから、「西出丸」※の南西に位置するこの櫓（偵察や射撃のための高樓）の名前の由来になっています。築城当時の櫓は19世紀後半に取り壊されました。現在の櫓は、江戸時代（1603-1867）の平面図と明治時代（1868-1912）の写真をもとに2003年に復元されたものです。

外からは2階建てに見えますが、実際には3階建てになっています。平時には一般的に保管庫として使われていましたが、戦時には防御のために使われていました。武士は、櫓の銃眼や「石落とし」（石を落下させたり熱湯を放ったり、矢を射下ろしたりする所）を通して攻撃していたのです。未申櫓の背後の構内には奉行所（奉行丸）がありました。

※「西出丸」は「本丸」の北西部にある。「丸」とは城郭の内部、防衛用の空間のこと。内側から「本丸」、「二の丸」、「三の丸」などと称し、「本丸」は通常、天守と城主の居館がある最も重要な空間。

中国語解説文の完成 (STEP 6 ~ STEP 7)

最終調整

STEP 6

中国語解説文と日本語仮訳の最終仕上げ

〈ディレクター・エディター・校閲者〉

地域からの指摘・依頼を踏まえ、編集・校閲を行います。

〈スタイルチェッカー〉

調整後の中国語解説文に対し、スタイルチェッカーは、中国語解説文の『ライティング・スタイルマニュアル』に基づいて、段落・フォントなどの書式や固有名詞の表記、句読点・引用符などの符号の使い方など、ライティング・スタイルの統一を最終確認します。

参考 本事業のスタイルチェッカーによる確認の実例

＜色分け例＞

- ・新規追記: 赤文字
- ・調整箇所: 青文字
- ・確認①修正: 黄色蛍光文字
- ・確認②修正: 水色蛍光文字

〈中国語・簡体字〉

未申櫓

過去、日本有时会用起源于中国的十二生肖来表示方位。“未”（羊）和“申”（猴）表示西南方向，因此这座位于“西出丸”※西南角的建筑被称为“未申櫓”，櫓是用于瞭望、攻击的塔楼。最初的塔楼在19世纪晚期被拆除，现在的建筑是2003年根据江戸时代（1603-1867）的平面图和明治时代（1868-1912）的照片复制而成。

从外面看，塔楼是双层，但实际上有三层。这些塔楼在平时用于储存物资，战时则用作防御。武士可以通过塔楼上的枪眼和射箭口（投掷石块、倾泻沸水或射箭的窗口）攻击。紧邻未申櫓背后的是奉行所（也称“奉行丸”），即地方长官的衙门。

※“西出丸”位于“本丸”的西北方。“丸”是指城堡内的防御空间。城堡从内至外通常有“本丸”、“二之丸”、“三之丸”，其中“本丸”是城堡中最重要的区域，多为天守和城主的住所。

【修正指示】
1行アキ。

【修正指示】
「三之丸」等へ修正。

〈中国語・台湾繁体字〉

未申櫓

在舊時日本，有時會用起源於中國的十二生肖來表示方位。「未」（羊）和「申」（猴）表示西南方向，因此這座位於「西出丸」※西南角的建築被稱為「未申櫓」，櫓是用於瞭望、攻擊的塔樓。最初的塔樓在19世紀晚期被拆除，現在的建築是2003年根據江戸時代（1603-1867）的平面圖和明治時代（1868-1912）的照片複製而成。

從外觀來看，塔樓是雙層，但實際上有三層。這些塔樓在平时用於儲存物資，戰時則用作防禦。武士可以透過塔樓上的槍眼和射箭口（投擲石塊、傾瀉沸水或射箭的窗口）攻擊。緊鄰未申櫓背後的是奉行所（也稱「奉行丸」），即地方長官的衙門。

※「西出丸」位於「本丸」西北方。「丸」是指城內的防禦空間。城堡從內至外通常有「本丸」、「二之丸」、「三之丸」等，其中「本丸」是城中最重要的區域，多為天守和城主的住所。

【修正指示】
同簡体字。

スタイルチェッカー
の見解

STEP 7

地域納品

最後に、中国語解説文と日本語仮訳の原稿を所定の提出様式に収め、地域協議会に納品します。

参考 本事業の地域納品の事例

〈中国語・簡体字〉

未申櫓

過去、日本有时会用起源于中国的十二生肖来表示方位。“未”（羊）和“申”（猴）表示西南方向，因此这座位于“西出丸”※西南角的建筑被称为“未申櫓”；櫓是用于瞭望、攻击的塔楼。最初的塔楼在19世纪晚期被拆除，现在的建筑是2003年根据江戸时代（1603-1867）的平面图和明治时代（1868-1912）的照片复制而成。

从外面看，塔楼是双层，但实际上有三层。这些塔楼在和平时用于储存物资，战时则用作防御。武士可以通过塔楼上的枪眼和射箭口（投掷石块、倾泻沸水或射箭的窗口）击。紧邻未申櫓背后的是奉行所（也称“奉行丸”），即地方长官的衙门。

※“西出丸”位于“本丸”的西北方。“丸”是指城堡内的防御空间。城堡从内至外通常有“本丸”、“二之丸”、“三之丸”等，其中“本丸”是城堡中最重要的区域，多为天守和城主的住所。

〈中国語・台湾繁体字〉

未申櫓

在舊時日本，有時會用起源於中國的十二生肖來表示方位。「未」（羊）和「申」（猴）表示西南方向，因此這座位於「西出丸」※西南角的建築被稱為「未申櫓」，櫓是用於瞭望、攻擊的塔樓。最初的塔樓在19世紀晚期被拆除，現在的建築是2003年根據江戸時代（1603-1867）的平面圖和明治時代（1868-1912）的照片複製而成。

從外觀來看，塔樓是雙層，但實際上有三層。這些塔樓在和平時用於儲存物資，戰時則用作防禦。武士可以透過塔樓上的槍眼和射箭口（投擲石塊、傾瀉沸水或射箭的窗口）攻擊。緊鄰未申櫓背後的是奉行所（也稱「奉行丸」），即地方長官的衙門。

*「西出丸」位於「本丸」西北方。「丸」是指城內的防禦空間。城從內至外通常有「本丸」、「二之丸」、「三之丸」等，其中「本丸」是城中最重要的區域，多為天守和城主的住所。

〈日本語仮訳〉

未申櫓

昔の日本では、方位を中国起源の干支、十二支の動物で表すことがありました。「未」（ヒツジ）と「申」（サル）という漢字は南西の方角を意味していることから、「西出丸」※の南西に位置するこの櫓（偵察や射撃のための高樓）の名前の由来になっています。築城当時の櫓は19世紀後半に取り壊されました。現在の櫓は、江戸時代（1603-1867）の平面図と明治時代（1868-1912）の写真をもとに2003年に復元されたものです。

外からは2階建てに見えますが、実際には3階建てになっています。平時には一般的に保管庫として使われていましたが、戦時には防御のために使われていました。武士は、櫓の銃眼や「石落とし」（石を落下させたり熱湯を放ったり、矢を射下ろしたりする所）を通して攻撃していたのです。未申櫓の背後の構内には奉行所（奉行丸）がありました。

※「西出丸」は「本丸」の北西部にある。「丸」とは城郭の内部、防衛用の空間のこと。内側から「本丸」、「二の丸」、「三の丸」などと称し、「本丸」は通常、天守と城主の居館がある最も重要な空間。

※本事業の納品物の詳細は『解説文事例集』をご参照ください。

https://www.mlit.go.jp/kankocho/page05_000144.html

本事業の体制

本事業の有識者体制

中国語解説文の品質を担保するため、本事業では、日本文化を中国本土・台湾市場向けに紹介する知見を有する外部有識者を起用しました。

STEP5 地域確認②の前に、中国語解説文と元の英語解説文・日本語仮訳とを併せて閲読し、内容とスタイルの両面において助言および改善点の提言を行いました。

陳 祖 蓓（観光・簡体字担当）

中国上海市生まれ

上海復旦大学日本語学科卒業。東京都立大学大学院博士課程修了。NHKBS ワールドニュースの放送通訳、国際会議の通訳業務に従事。講師としては外務省研修所、青山学院大学、通訳専門学校（インタースクール）などで活躍し、現在は株式会社ジェーシー・コミュニケーションの相談役を務める。

主な実績：『眠れぬ真珠』（訳者）新潮文庫・2008 年、『結婚の才能』（訳者）朝日新聞出版・2010 年のほか、『時事中国語の教科書』（共著）朝日新聞出版をはじめ大学教科書を多数執筆。

王 亜 新（言語学・簡体字担当）

中国北京市生まれ

北京大学日本語教員を経て、1986 年に来日。来日後、通訳者・翻訳者養成のアイ・エス・エスで教鞭を執る。1996 年、東洋大学文学部助教授を経て 2005 年より社会学部教授。専門は日本語学、中国語学、日中言語対照研究。文学博士。2020 年 3 月に東洋大学を定年退職し、名誉教授。

主な実績：『日中辞典第三版』（編集者）小学館・2015 年、日中翻訳・通訳法（大東文化大学）、言語文化論（東洋大学）。

張 佩 茹（言語学・繁体字担当）

台湾生まれ

2000 年、早稲田大学第一文学部英文学専修交換留学修了。2004 年、（台湾）国立台湾師範大学文学部中国語教育研究科修士課程修了。2013 年、課程博士号取得：博士（文学）（東京大学）。米国ワシントン・アンド・リー大学 Teaching Assistant、東京大学教養学部非常勤講師、早稲田大学非常勤講師などを経て、現在は東北大学大学院文学研究科准教授を務める。

主な実績：『快樂学漢語・説漢語—初中級中国語会話』（共著、早稲田総研インターナショナル [現・早稲田大学アカデミックソリューション]）、『もっと知りたい台湾華語』（白水社）など。

蘇 文 瑜（観光・繁体字担当）

台湾生まれ

1990 年、（台湾）国立台湾大学森林学科学士。1992 年、（台湾）国立台湾大学森林環境資源学大学院修士。1997 年、京大学生存圏研究所居住圏環境共生分野博士。京大学生存圏研究所研修員、（台湾）内政部建築研究所研究員などを経て、現在は（台湾）中国文化大学商学院観光事業学科・観光事業学大学院コース助理教授を務める。

主な実績：「台湾からみた北海道の観光」（『都市学研究』2009 年）、「日本旅客在台餐飲消費體驗之研究」（『観光旅遊研究學刊』2008 年）など日台観光事業に関する論文を始め、90 編以上を執筆。

Memo

より多くの外国人旅行者に、
より多くの地域の魅力を
伝えましょう！



観光庁
Japan Tourism Agency